静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果（期間評価）

令和８年 10 月
静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

１　施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター　　公益財団法人静岡県文化財団

２　指定期間

令和４年４月１日～令和９年３月 31 日（５年間）

３　指定管理業務評価の流れ

（１）令和４年度から令和７年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。

（２）県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。

（３）自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。（開催日　令和８年８月 28 日）

【外部委員】

氏　名	職　名
岩﨑 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社 CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
山本 雅弘	株式会社東平商会代表取締役

４　評価結果

（１）外部委員による評価

ア　総合評価（５段階評価）

令和４年度から令和７年度の期間実績は、評価点「３．９」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

１．０～１．４	１．５～２．４	２．５～３．４	３．５～４．４	４．５～５．０
実施しなかった	不充分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ　評価に関する意見

○　当該期間にわたり、概ね目標を達成し、適切な運営が行われている。再来場希望者率や初体験者比率の高さも評価できる。
今後、来訪者やマーケットに対する分析力やマーケティング力などのスキルをさらに高め、効果的な情報発信を行うことで、県民が良質な文化芸術に触れる機会を一層増やしてほしい。

○　コロナ禍以降、減ってしまった利用者をどのように取り戻してきたか、どのような取組をしてきたかよく分かる。これからも現状に留まることなく、さらに発展していくような企画などを期待している。

○　施設を安定して運営することに関しては問題無いと感じる。ただ、新しいことに挑戦する意識は変化の速い今の時代ではもっと必要。県民の認知度が高まったとは感じられない。東静岡駅周辺エリア全体の発展にかかっていると思う。

○　期間中、質の高い舞台芸術プログラムを専門的な視座による提供を通じて、地域の文化振興や市民への芸術還元に貢献した。今後は、既存の取り組みの定着だけに留まらず、より幅広い層へのアプローチや、市民との協働を深めるプログラムの展開など、一段高いステージを目指した運営ビジョンを描くことを望む。

○　文化の創造拠点としての役割から、補助金により維持していくべき施設であることは分かるが、利用料収入や、企画事業収入の割合に目標設定があってもよいのではないか。

（2）県評価の概要

ア　総　評

（公財）静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ　数値目標の達成状況

項　　目	目　標	実績				平均	
		R4	R5	R6	R7	R4～R7	R4～R6
企画事業鑑賞者数	100,000 人	47,662 人	78,270 人	79,801 人	94,642 人	75,094 人	68,578 人
企画事業ネット配信閲覧回数	最終年度 150,000 回	1,909,790 回	556,808 回	983,609 回	702,860 回	1,038,267 回	1,150,069 回
企画事業県民参加者延べ人数	5,000 人	3,365 人	3,057 人	2,765 人	3,257 人	3,111 人	3,062 人
企画事業こども学生鑑賞・参加者数	10,000 人	6,934 人	7,519 人	8,519 人	6,272 人	7,311 人	7,657 人

企画事業再来場希望者率	90.0%	90.5%	92.5%	98.4%	97.9%	94.8%	93.8%
企画事業初体験者率	30.0%	53.5%	51.4%	48.9%	40.3%	48.5%	51.3%
ｻﾎﾟｰﾄ企業･個人数	最終年度 500 団体･人	59	39	52	57	52	50
人材育成事業参加者数	40 人	45 人	46 人	92 人	117 人	75 人	61 人
文化芸術分野の一般県民鑑賞･参加 貸館催事件数	110 件	143 件	121 件	140 件	130 件	134 件	135 件
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝの開催件数	45 件	38 件	46 件	59 件	42 件	46 件	48 件
期間外予約の獲得件数	50 件	51 件	46 件	44 件	55 件	49 件	47 件
催事開催支援ｻｰﾋﾞｽ取扱件数	2,000 件	1,552 件	1,626 件	1,532 件	1,654 件	1,591 件	1,570 件
催事利用者の来館者数	650,000 人	454,861 人	409,491 人	417,142 人	648,449 人	482,486 人	427,165 人
催事利用者以外の来館者数	27,000 人	67,016 人	136,431 人	89,390 人	128,924 人	105,440 人	97,612 人
ﾚｽﾄﾗﾝ･ｶﾌｪ利用者数	23,000 人	14,804 人	10,660 人	12,576 人	14,751 人	13,198 人	12,680 人
施設稼働率	80.0%	77.3%	76.7%	75.9%	76.6%	76.6%	76.6%
施設管理瑕疵に起因する事故	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
総エネルギー消費量	▲1.0%	▲6.8%	▲3.1%	▲1.4%	▲5.5%	▲3.8%	▲3.8%
貸館利用者の満足度	86.0%	87.6%	86.4%	96.3%	88.2%	89.6%	90.1%

〔全　　般〕

・新型コロナウイルスの影響が残るなか、目標達成を強く意識した取り組みにより、R4 から R6 にかけて全 19 項目中 9 項目で目標を上回る成果を上げた。

・SNS や WEB を活用した情報発信の強化によって「子どものうちから文化芸術を体験する場づくり」の鑑賞者数を着実に回復させたほか、多様なアウトリーチ事業や企業協賛による次世代支援などを通じて、新たな鑑賞機会の創出に努めた。

ウ　実施業務別評価

（1）　グランシップ企画事業

・子どもの成長段階に応じた文化芸術体験プログラムや学校へのアウトリーチ活動を継続的に実施し、次世代の鑑賞機会を広く創出した。

・多ジャンルの公演や企業協賛による新しい芸術振興プロジェクトに挑戦し、幅広い世代の新たな顧客・ファン層の開拓に努めた。

（２） グランシップ企画事業を支える運営体制

・社会情勢に合わせたボランティア活動の再構築や登録アーティストの活動支援により、地域密着型の企画を安定的に提供した。

・SNS や WEB 等による多角的な広報活動を推進して情報伝達力を高めたほか、企業協賛による新たな財源確保の仕組みを構築した。

（３） 施設の利用に関する業務

・大規模コンベンション等の誘致に向けて近隣施設との連携を強化し、高い施設稼働率を維持した。

・施設予約システムの改修やキャッシュレス決済、オンライン登録を推進し、手続きの簡素化と利用者利便性の向上に努めた。

（４） 施設の維持管理に関する業務

・設備の老朽化に対し、迅速な応急復旧と代替措置を行うことで、安全・安心で快適な利用環境を維持した。

・コージェネレーションシステムの適切な運用等により、コロナ前比で 4.2%のエネルギー消費量削減（省エネ目標）を達成した。

（５） その他運営に関する業務

・大学等の教育機関との連携や魅力的なマルシェイベントの開催により、新たな客層や県外からの来訪者の誘致を促進した。

・利用者アンケートの結果を速やかに分析・共有し、施設の補修やサービスの改善へ迅速に反映させる PDCA サイクルを実践した。

（７） 運営体制及び組織

・キャリアパス制度やメンター制度の活用により専門人材の育成に努めるとともに、時間外労働の削減等、働きやすい職場環境を確立した。

・徹底したコスト管理と外部資金（補助金・協賛金等）の積極的な獲得により、厳しい社会情勢下においても３年連続の黒字決算を達成した。